

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	創発学術院
--------	-------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	B
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1110 「創発学術院規定」にもとづき、研究活動を推進している。【1110a】具体的な研究の実施状況については、創発学術院専任教員ミーティング(不定期開催)において、相互に点検、評価をおこなった。	
1120 「創発学術院運営委員会に関する内規」にもとづき、2017 年度は年 6 回、運営委員会を開催した。会議には運営委員が参加し、組織の運営、活動について点検、評価をおこなった。また、審議内容は運営委員会議事録として記録して、各委員にメール送付するほか、ウェブサイトのメンバー限定ページにも掲載した。【1110b、1110c、1110d】	
1110・1120 研究、教育、管理運営を含む諸活動は、年報として記録し公表している。【1110・1120e】。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	ウェブサイトのメンバー限定ページに議事録を掲載し、必要ときにすぐに参照できるようにしている【1120d】
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1110	組織として、年度重点目標を制定しなかった。次年度以降は目標を定め、目的意識を共有する必要がある。
項目 No. 1110	専任教員ミーティングについては不定期開催であり、また記録を残していないため、今後は定期的に行うよう努め、また記録を残す必要がある。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
運営委員会の議事録を始めとする各種の情報を創発学術院のウェブサイト（但しメンバー限定ページ、パスワード制限あり）に掲載するようにした。それにより、委員が必要に応じて会議の記録を参照できるようになり、情報共有が容易になった。【1120d】
また、教育、研究、管理運営の活動記録を年報として集約することで、創発学術院の活動の現状を組織内外に分かりやすく公表した。【1110・1120e】

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1110	創発学術院運営委員会内で「数学」「生物学」「心の先端研究」の3つの専門部会を組織する。各専門部会において年度重点目標を制定し、その到達度合いを定期的に点検、評価していく予定である。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1110	a	A	創発学術院規定
1120	b	A	創発学術院運営委員会に関する内規
1120	c	A	創発学術院運営委員会議事録（2017年度）
1120	d	A	創発学術院ウェブサイト（メンバー限定ページ）スクリーンショット
1110・1120	e	B	創発学術院年報（2017年度）

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	分子性触媒研究センター
--------	-------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	委員会無し

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
ほぼ毎週研究相談会を開いて、研究の進展状況を検証している。また、年に数回は、外国人のトップ研究者を招き、研究員と個別のコンサルテーションの機会を設けている。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1110	ペプチドの工業的合成法の開発および窒素と酸素結合の合成法の開発。
項目 No.1120	委員会活動等は行っておりません。(委員会は設置されておりません。)
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1110	研究室のスペースが充分でないため、研究の進展が阻害されている。
項目 No.1120	委員会活動等は行っておりません。(委員会は設置されておりません。)

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<ul style="list-style-type: none"> ・可能ならば、研究スペースの拡大が望ましい。 ・大幅な研究費の獲得が研究の推進に不可欠である。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
No.1110	外部資金の獲得を目指している。また、研究スペースの拡充を依頼している。
No.1120	委員会活動等は行っておりません。（委員会は設置されておりません。）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
No.1110	a	A	【提出 0501】 報告様式 1_実施報告書_中部大学

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	薄膜研究センター
--------	----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
センター方針・年度テーマ設定：センター長が年度初めの4月に全員に公表説明を実施 研究進捗評価：毎週全員で過去1週間の結果報告とその議論を行い必要に応じて計画の見直し変更を実施 自己点検：進捗報告の中で大学の研究としての成果を評価し必要な軌道修正を行うとともに、その都度公表方法(論文化、出願、プレスリリース等)の点検判断を実施	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1110	企業との共同研究の過程で大学が新規な材料を見出し出願を完了(2018.1.18)
項目 No.1110	上記出願実績を基に2018年度JST-A-STEP シーズ育成プロジェクトに応募(2018.5.10)
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	先端研究推進上不可欠な物性解析装置で学内に共用できる設備がほとんどない
項目 No.1120	上記現状から外部機関(メーカー分析部、公的機関等)の有償借用により実施している

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
1.	産官学連携による研究活動の活性化と推進：企業—リケンテクノス(株)、公的資金—JST-A-STEP シーズ育成
2.	研究成果の実用化展開：企業と連携し大学発研究成果の社会還元を推進

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	柔軟性、生体適用性を持つ多機能薄膜の開発を異分野連携交流により実施
1120	実用化のバリアである生産コスト低減の研究開発を志向

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1110	-	B	出願特許：有機無機ハイブリッド膜（特願 2018-006079）出願 2018.1.18
1110	-	B	JST-ASTEP シーズ育成プロジェクトへの応募（申請 2018.5.10）

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	超伝導センター
--------	---------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1) 定期的にセンターで Staff Meeting を開いて、各種研究の進展や学会などへの発表状況の把握を全員で行っている。 2) センターとして annual review (根拠資料) を昨年度も取りまとめを行った(現在、最終原稿調整中)。 3) 研究ミーティングで毎週、学生の報告と勉学の進展をレポート報告させて確認を全員で行っている。 4) 学生の就職活動等についても、同様に指導を行うと同時に留年生については月一で面談を行っている。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1110	超伝導直流送電は、世界に先駆けた独創性の高い研究を行い、実験データとして世界一の結果を得ている。
項目 No.1110	他部門の研究(ガンの温熱治療)を装置サイドでサポートしている(OiDE プロジェクト)。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1110	運営をスムーズに進めることが求められている。特に、外部機関との関係では改善が必要。
項目 No.1110	超伝導送電の研究進展によって、次のステップには社会実装を行うための組織をどの様に形作るかの検討を進める必要がある。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>学外に研究会を組織し、複数の企業と共同で次の計画を立案している。この会の活動を通じて、社会実装を進めるに当たり、大学としての役割を規定すると同時に中部大学の今後の発展のための合意形成を務めることが求められている。</p> <p>このため、学内外の有識者との交流を通じて、情報収集を務めている段階である。特に、今後は国外との関係が重要と考えている。このため、国外の大学や企業との交流も積極的に進めている。</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1110	超伝導の航空機応用は、現在研究の主力である超伝導送電とは技術的に重なる部分が多いが、応用先は完全に別となるため、これを試験的に進めることで、社会実装能力の向上を図ることを進めたいと考えている。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1110	a	A	H29 活動状況報告
1120	b	A	超伝導運営委員会議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	エネルギー変換化学研究センター
--------	-----------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織(研究所、研究系センター等)において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	D

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
・センター長のリーダーシップのもとに年度初めのグループミーティングにおいて、運営と研究の方針を伝えるとともに、研究員毎に年次目標を設定。その進捗状況および到達度は、定期グループミーティングおよび論文・学会報告などの成果発表により客観的に行っている。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1	有機-無機複合材料研究により、人工光合成分野において顕著の研究成果が得られた。JST ACT-C においても高く評価された
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 2	材料研究における結果的な成果のみならず、より化学の核心に迫る機構研究にも配慮
項目 No. 3	産学連携の推進

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
・分光学的方法など、他大学の研究チームとの共同研究による研究の深化を図る
・産学連携研究の促進

--

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
No.3	基礎的反応機構研究について、平成29年度以降の早期に実施の準備を進めた
No.4	産学連携を重点的推進を進めた

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
No.1	a	A	平成29年度 エネルギー変換化学研究センター活動成果
No.3,4	b	A	今後の改善目標と具体的方策

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	学務部	学務課
--------	-----	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。</p> <p>1120 学務課の業務は、事務分掌で主に次の10の事項を担当すると定めている。</p> <p>1 委員会等に関すること 学務課が担当する委員会等は、(1)大学協議会、(2)人事審議会、(3)中部大学学部長会・研究科長会、(4)動物実験委員会、(5)倫理審査委員会、(6)放射線安全委員会、(7)組換えDNA実験安全委員会、(8)バイオセーフティ委員会、(9)研修センター運営委員会がある。 各委員会の運営については関係法令、規程等に則って適切に開催している。 [1120a][1120b] [1120c][1120d][1120e][1120f][1120g] [1120h][1120i] [1120j]</p> <p>2 大学教育職員等の身分に係る事務に関すること 教育職員の任用、昇任、退職等については、職員採用規程及び中部大学人事審議会規程に則り適切に事務手続を行っている。また、人事異動等の発令毎月に教育職員定員・現員表を更新し、教職員専用 HP を活用して学内に周知している。非常勤講師の委嘱事務手続については、教務支援課からの情報に基づき委嘱情報を整理し、発令担当の人事課に情報を渡している。なお、必要に応じて委嘱依頼状(兼業依頼)を本務先に郵送したり、通勤届・給与振込依頼書の提出依頼等諸手続を行っている。[1120c] [1120k]</p> <p>3 大学教育職員の勤務に関すること 教育職員に係る服務全般、主には(1)諸届の受付、記録及び保管、(2)出退勤に係る記録及び保管 (3)出張届、報告書等の受理及び保管並びに旅費計算事務、(4)教育職員の他大学非常勤講師委嘱承認手続等、(5)非常勤講師、非常勤研究員等の身分証明書の発行などを行っている。それぞれの業務において、関係規程等に則って適切に処理している。[1120l]</p> <p>4 学則及び規程に関すること 学則の改正及び中部大学の諸規程等の制定・改廃に係る庶務を行っている。具体的には学務課で管理</p>
--

<p>している学則、規程及び、各担当部署から提出される規程の制定・改廃案等を大学協議会に諮り、承認後に教職員専用HPを活用して学内に周知している。[1120m]</p>	
<p>5 所轄庁への申請及び届出に関すること</p> <p>学長決定及び学則変更等があった場合には、文部科学省へ必要な届出等を行っている。</p> <p>その他、倫理審査委員会の設置・運営状況報告(文部科学省研究振興局)や放射線管理状況報告書(原子力規制委員会)など所轄庁への必要な報告を行っている。</p>	
<p>6 大学の庶務に関すること</p> <p>学務課は総合大学の総務担当部署として、(1)入学式、学位記授与式等式典行事の企画及び実施、(2)全学教職員総会の企画及び実施、(3)1号館玄関の受付対応、(4)郵便物の等の接受関係、(5)表彰・褒章・学歴・資格取得届の受付、(6)掲示物、ポスター等の掲示及び配布など大学における広範囲な庶務業務を担当している。</p>	
<p>7 文書に関すること</p> <p>大学、法人に係る郵便物等の接受及び発送、記録及び配布を行うとともに、併設校及び三浦記念会館へ文書等の配送管理を行っている。春日井キャンパス内の部門ごとにメールボックスを配置しており、効率よく配布できるよう工夫している。</p>	
<p>8 調査統計に関すること</p> <p>法令で定められた調査(学校基本調査等)や、その他団体から依頼を受けるもの(国際研究交流状況調査等)について、学内関連部署に資料提出を依頼し、取り纏めを行い期日までに回答をしている。</p>	
<p>9 施設利用に関すること</p> <p>学会や資格試験などで教育・研究等に関係し、学事に影響がない場合は施設の貸し出しを行っており、その窓口として、施設使用許可願の受付、主催者との連絡調整など対応している。また、中部大学研修センターの利用申込の受付も行っている。</p>	
<p>10 その他、大学に関していずれにも属さない事項に関すること</p> <p>複数の部署に跨る場合など、調整が必要なものについて交通整理を行っている。</p>	
<p>長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
<p>課題事項 《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点</p>	
項目 No.1120	動物実験委員会に関する外部検証の結果、指摘事項については2017年度中に対応済みであるが、助言等を受けた事項に対する対応については未対応である
項目 No.1120	中部大学研修センター規程において研修センター運営委員会を置き、運営に関する事等について協議することとしているが、協議事項が近年特になく、2016年度以降委嘱自体滞っていた。
項目 No.1120	旅費計算事務：出張旅費規程だけでは読み取れない事例への対処方法について問い合わせを受けることが少なくない。
項目 No.1120	非常勤講師の勤務管理：授業担当の有無を管理する教務支援課から情報を受けて通勤費の計算、勤務管理等事務処理を学務課で行い、給与支払いを担当する人事課に情報を渡す流れであるため、業務効率が良くない部分がある。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない</p>	
<p>1. 委員会等に関すること</p> <p>(1)動物実験委員会</p> <p>2017年11月28日、「公益社団法人日本実験動物学会」による動物実験に関する外部検証を実施し、本学の動物実験の実施体制については、適切であると評価されたが、動物実験取扱規程の一部文言修正の指摘と情報公開の項目追加について助言を受けた。合わせて教育訓練について人獣共通感染症に関する訓練</p>	

実施の検討を勧められた。これを受け、指摘事項については対処し、助言及び検討を進められた事項については、引き続き検討し、今後改善に向けて対応していくこととした。[1120n][1120o]

(2)放射線安全委員会

不要な密封放射線源を、法令に基づき廃棄した。[1120p]

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	動物実験委員会：情報公開の項目追加及び人獣共通感染症に関する訓練を含む教育訓練の実施 フォロー（実験動物教育研究センター対応）
1120	研修センター運営委員会：規程に基づき委員の委嘱を行い、適正な運用を行う。
1120	出張旅費の処理に関して学内 HP で FAQ を載せ、適正な運用を促すとともに学務課への問合せを減らして業務効率の向上を図る。
1120	サービスシステムの対象者拡大（システム更新）に合わせて、非常勤講師の勤務管理の流れを一部変更（機械化）し、キャンパスメイトとの連携を図ることで、業務効率の向上を図る。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	学務課所管の会議開催状況一覧（2017年度）
1120	b	A	中部大学協議会規程
1120	c	A	中部大学人事審議会規程
1120	d	A	中部大学学部長・研究科長会に関する申合せ
1120	e	A	中部大学動物実験取扱規程
1120	f	A	中部大学倫理審査委員会規程
1120	g	A	中部大学放射線安全委員会規程
1120	h	A	中部大学組換えDNA実験規程
1120	i	A	中部大学バイオセーフティ委員会規程
1120	j	A	中部大学研修センター規程
1120	k	A	職員採用規程
1120	l	A	出張・旅費規程
1120	m	A	学則・規程 HP 画面
1120	n	B	動物実験委員会議事録
1120	o	B	動物実験に関する検証結果報告書（動物実験に関する外部検証事業）
1120	p	B	放射線安全委員会議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	研修センター
--------	--------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証	-

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1120 長年勤務した技能、用務嘱託員が退職したため、新たな職員とのコミュニケーションの場として適宜会議を開催し、施設の状況、作業内容の確認等情報の提供、交換を行い円滑な運営に心掛けた。[1120 a] また、前例に捕らわれることなく独自の視点で積極的に業務を進めていくよう指導した。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	朝食のメニュー変更及び配膳方法の改善を図った。[1120 b]
項目 No.1120	第1宿泊棟の改修に伴って、談話室から食堂ラウンジへ自動販売機(飲料水)を移設し、利便性の向上を図った。[1120 c]
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	グラウンドの芝生再生及び保全
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
セキュリティ強化のため屋外に人感センサーライトの設置や侵入防止のための柵の設置などを行った。[1120 d]

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	グラウンドの芝生養生期間 (使用禁止期間) を設ける。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	平成29年度職場ミーティング開催状況
1120	b	B	朝食メニュー変更後の画像
1120	c	B	自動販売機移設後の画像
1120	d	B	セキュリティ強化策の画像

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	学務部設置改組準備課
--------	------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
<p>設置改組準備課は、本学における教育研究組織の設置改組等に係る認可申請事務を担当する部署である。</p> <p>本学の教育研究活動の充実・発展に対する社会からの期待に応えるためには経営基盤の安定が不可欠であり、その安定を図るために必要な設置計画等の目標達成(認可等を得ること)を絶対的に求められる立場にある。</p> <p>設置計画等の企画・立案に当たっては、検討委員会及び専門委員会を立ち上げ、関係教職員と密接な連携をし、教育課程、教員組織等の基本的な考え方を十分に検討する必要がある。</p> <p>その際には、学校教育法、大学設置基準、各省からの通知等の関係法令を理解するとともに、中央教育審議会等における審議の動向を踏まえて、学生の動向変化や社会的ニーズに柔軟に応えるための十分な検討が求められる。</p> <p>本学における設置計画等は、関係教職員の努力もあり、関係省庁等の理解の下で、目標を100%達成している。</p> <p>しかしながら、認可申請書及び届出書は「社会に対する『約束』(2005年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像)」という役割があることから、「教育の充実」等の名の下に行われる設置計画の変更も、内容及び程度によっては設置計画の不履行に該当し、ペナルティの対象となり得るにも関わらず、設置後(完成年度前)に、教員の交代、カリキュラムの変更が生じている面が見受けられる。</p>	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	設置後(完成年度前)における、教員の交代、カリキュラムの変更は、学年進行中は提出を求められている履行状況報告書に記載し、大学のHPでの公表などが求められているため、関係

	教職員の理解を得て、原則として設置計画の内容は変更しないように改善する必要がある。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>設置計画等の企画・立案に当たっては、関係部署・教職員と密接な連携をし、教育課程、教員組織等の基本的な考え方と、現在、求められている大学改革の基本方針を踏まえて、準備段階において教職協働の側面からも十分に検討し、設置後に教員の交代、教育課程の変更等のないように努め、社会に対する約束を履行していく。また、社会の期待に応えるよう、関係部署が連携共同して効率的な業務を推進していく。</p> <p>2017年度4月届出設置 電気電子システム工学科、宇宙航空理工学科、ロボット理工学専攻 (M) [1120a]</p> <p>2017年度5月履行状況報告書提出 国際学科、経営情報学科、電気電子システム工学科、宇宙航空理工学科、創造エネルギー理工学専攻 (D)、ロボット理工学専攻 (M) [1120b]</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	B	届出書 電気電子システム工学科、宇宙航空理工学科、ロボット理工学専攻 (M)
1120	b	B	履行状況報告書 国際学科、経営情報学科、電気電子システム工学科、宇宙航空理工学科、創造エネルギー理工学専攻 (D)、ロボット理工学専攻 (M)

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部事務室
--------	--------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1120(1) 事務分掌に則り、工学部の円滑な管理運営を行っている。[1120(1)a]	
1120(2) 「工学部教授会規定」に基づき、工学部教授会を設置している。開催日を毎月第3週の水曜日と定め、学部内の情報共有および連携を図っている。また学生異動等の必要な事項について、審議している。[1120(2)a][1120(2)b] 併せて、工学部教授会を円滑に運営するため、主任会を設置している。[1120(2)a][1120(2)c] また、工学部資格審査会を設置し、客員教授の配置、客員研究員の配置等について審議している。[1120(2)d] 特に教育課程の変更等については、工学部教務委員会を設置し、必要に応じて開催、審議している。[1120(2)e] さらに、各学科においても、教授会、主任会の議事を受け、定期的に学科会議を開催し、情報の周知徹底を図っている。	
長所・特色 <<箇条書き>>	*先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No.1120(2)	工学部 HP を活用して、会議のペーパーレス化を図っている。[1120(2)f]
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>>	*向上すべき点、改善すべき点
項目 No.1120(2)	主任会については、紙媒体にて実施しており、教授会に準じてペーパーレス化を推進する。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
工学部 HP を活用して、会議のペーパーレス化を図っている。[1120(2)F]

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120(2)	委員会についても HP を活用し、情報の周知とスピード化を図る。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120(1)	a	A	大学 HP>教職員専用> 総務部・学務部関連>事務分掌 https://www2.chubu.ac.jp/news_documents/faculty_staff/general_administrations/jimubunshou/jimubunshou.pdf
1120(2)	b	A	大学 HP>教職員専用>規定集>中部大学工学部教授会規定 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/regulation/main.php?menu=search
1120(2)	b	A	2017 年度工学部教授会議事録
1120(2)	c	A	2017 年度工学部主任会議事録
1120(2)	d	A	2017 年度工学部資格審査会議事録
1120(2)	e	A	2017 年度工学部教務委員会会議事録
1120(2)	f	A	工学部 HP https://www3.chubu.ac.jp/engineering/faculty_staff/engineering_faculty/engineering_faculty2017/

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科事務室
--------	----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1120(1)	事務分掌に則り、工学研究科の円滑な管理運営を行っている。[1120(1)a]
1120(2)	「工学研究科委員会規定」に基づき、工学研究科委員会を設置している。開催日を毎月第3週の水曜日と定め、研究科内の情報共有および連携を図っている。また学生異動等の必要な事項について、審議している。[1120(1)a] [1120(2)a] 併せて、工学研究科委員会を円滑に運営するため、専攻主任会を設置している。[1120(2)a] [1120(2)b] また、工学研究科資格審査会を設置し、大学院担当資格、客員教授の配置、客員研究員の配置等について審議している。[1120(2)c] さらに、各専攻においても、研究科委員会、主任会の議事を受け、定期的に専攻会議を開催し、情報の周知徹底を図っている。
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120(2)	会議資料について、HP 上に掲載し、会議のペーパーレスを推進した。[1120(2)e]
項目 No.	
課題事項 <箇条書き> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120(2)	専攻会議において、業務内容の確認・点検作業を行う。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
HP に会議資料を掲載し、各自で事前に議事内容を確認できるようにし、会議の円滑な運営を推進した。 [1120(2)e]

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120(2)	委員会についても HP を活用し、情報の周知とスピード化を図る。
1120(2)	専攻会議において、業務内容の確認・点検作業を行う。
1120(2)	分野が跨る専攻においては、連携を深めるよう議論を進め、可能な限り合同の修士研究発表会を実施するよう調整する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120(1)	a	A	大学 HP>教職員専用> 総務部・学務部関連>事務分掌 https://www2.chubu.ac.jp/news_documents/faculty_staff/general_administrations/jimubunshou/jimubunshou.pdf
1120(2)	a	A	大学 HP>教職員専用>規定集>中部大学工学研究科委員会規定 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/regulation/main.php?menu=mokuji
1120(2)	a	A	2017 年度工学研究科委員議事録
1120(2)	b	A	2017 年度工学研究科専攻主任会議事録
1120(2)	c	A	2017 年度工学研究科資格審査会議事録
1120(2)	d	A	工学部 HP https://www3.chubu.ac.jp/engineering/faculty_staff/engineering_faculty/engineering_faculty2017/

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部事務室
--------	---------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1120 人文学部の教育研究活動・管理運営が的確かつ円滑になされるために、学部における課題・検討事項を人文学部教授会において遺漏無く確認・周知できるよう、主任者会議(月1回、第2水曜日)を開催し、毎回の教授会の議題確認及び各委員会報告を行った。また、必要に応じて教授会にて事務室より事務連絡と報告を行った。 [1120a]	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.	
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組	*成果の有無を問わない
------------	-------------

主任者会資料のペーパーレス化による、学科所属教員へ情報伝達の迅速化及び効率化を図った。[1120b]
 退学理由集計表・退学者数推移表を教授会で配付し、退学者の現状把握と抑制を図った。[1120c]

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	B	平成 29 年度 第 1 回～第 13 回人文学部教授会議事録
1120	b	B	平成 29 年度 第 1 回～第 11 回人文学部主任者会資料
1120	c	B	H26 年度 9.30 付～H29 年度 3.31 付 人文学部退学者の退学理由

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	現代教育学部事務室
--------	-----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
現代教育学部事務室は、学校法人中部大学管理運営規則の事務分掌に定められた業務を適正に遂行している。職員数が少ないため、事務室の運営に関する会議等は特に設けていない。常に情報共有、連携に努め、改善の視点をもって業務にあたりながら、効率化・合理化について意見を出し合い、改善を行っている。[1120 a]	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	教員と連携した資格・免許科目の履修漏れ、留年防止対策(個人成績表・時間割の依頼)[1120b]
項目 No.1120	教職課程、保育士養成施設に関する庶務
項目 No.1120	教職(講師情報)・保育職求人情報を学部HPに公開[1120c]
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	年度ごとの目標設定、総括を行う場を設けていないこと
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
平成 29 年度は約 20 年ぶりに教育職員免許法等の改正に伴う教職課程再課程認定申請があり、現代教育学部・教育学研究科分の書類作成の庶務を担当した。書類作成を短期間で行う必要があることが予想されたため、事務

職員も教職課程に関する説明会等で最新情報や法令・基準を収集し、速やかに学部教員にレポート形式で提供するなど、申請業務が円滑に進むように情報共有を図った。[1120d]

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	業務分担表の作成（全体の仕事内容・量を把握し、業務の整理、見直しを行う）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	事務分掌（現代教育学部事務室）
1120	b	A	成績、個人時間割の提供依頼文書
1120	c	A	求人情報（学部 HP）
1120	d	A	教職関連情報のレポート

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	教務部・学生教育部(教務支援課)
--------	------------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	C
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1120 本学における学生支援の方針〔1120a〕に基づき、学生教育部教務支援課では、カリキュラム編成、履修、授業・試験運営、成績管理等を中心とする教務事務を担うことで側面的な教育支援を行うとともに、多角的・自発的な学習の「場」として学習支援室の運営や、取得単位の少ない学生への対応等、様々な修学支援を行っている。また、教務部として、一貫した教育戦略の推進および学生支援促進をテーマに、教育課程の体系化、単位の実質化、教育効果の向上を図るため、教職協働で取り組んでいる。こうした教育・修学支援における各種制度の確立や改正の是非、および実施内容の適否については、毎月開催される教務委員会にて審議・検証している〔1120b〕。	
通常業務の点検・検証という点においては、課内のミーティングを不定期開催し、情報共有および業務改善に関する意見交換を行っている〔1120c〕。また、課員は教務関連の様々な研修に年間1～2回程度参加し、担当業務に関する国の政策や方針に対する理解を深めるとともに、本学の修学支援方針との整合性、および方針に基づく教務業務の適切性を確認している〔1120d〕。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	教務委員会開催・議事録作成に関する手続きが適切に行われていない(起案・決裁)
項目 No.1120	年度重点目標が具体的に設定されていない

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
1120	2017年度は修学支援の一環として、離籍者数の低減を目的とする保証人への成績通知を実施した。実施の可否については、2017年度第2回教務委員会（2017年6月19日開催）にて審議の上、承認された〔1120e〕。 課内ミーティングは毎月2回実施を目標としていたが、時間的都合により不定期での開催に留まった〔1120c〕。内容についても、業務改善に繋がる問題提起や討議、関連法規等の知識を深めることを目的としていたが、業務報告・情報共有が主な内容となった。 2017年度は愛知県私大教務研究会、全国私立大学教職課程協会研究大会、私学工科系教務事務研修会等19の研修に11名が参加した〔1120d〕。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	保証人への成績通知と離籍者の低減との関連性については、今後学生部（学生支援課）と連携して検証が必要となる。
1120	課内ミーティングを定期（月2回）開催し、業務改善に繋がる問題提起や討議、および関連法規の知識を深める内容とするとともに、記録を作成する。
1120	研修参加者による記録の作成、および報告会を開催し、課全体の業務改善に繋げる。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	1120a	A	教育研究の質の向上のための各種方針等（学生支援に関する方針）
1120	1120b	B	教務委員会議事録
1120	1120c	B	課内ミーティング次第
1120	1120d	A	2017年度研修参加記録
1120	1120e	A	2017年度第2回教務委員会議題・議事録（2017年6月19日）

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	研究推進事務部研究支援課
--------	--------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
研究戦略委員会で承認された「研究戦略活動の事業計画と実施」に基づき研究支援活動を実施している。また、結果については研究戦略委員会に報告し、自己点検している。主な内容は次の通り。	
1. 研究活動の多面的な展開支援	
①特別研究費や学内研究活動の支援を通して学内研究の活性化などを実施。	
②「産学連携ハンドブック」「中部大学研究者紹介」「中部大学戦略部門」の冊子を作成し、研究活動能力のアピールに努めている。	
③研究所/センターの活動に対して学長裁量研究経費を活用することにより活動支援をしている。	
④研究倫理委員会、研究戦略委員会、研究支援調整会議、利益相反委員会、発明考案委員会について事務局として適切に対応している。	
2. 教育研究外部資金の確保と推進	
①外部資金獲得のために、「研究ガイドブック」「産学連携ハンドブック」を作成し、公的研究費の申請支援、民間研究費の契約、特許支援を実施している。	
②研究不正防止への取り組みとして、「研究ガイドブック」「中部大学における科学研究の健全な発展のために」「安全保障貿易管理ガイドブック」を作成し、それを活用しながら研究不正防止活動に努めている。	
3. 社会連携研究活動の展開	
①中部大学フェア、各種産官学連携活動への参画により連携を図っている。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	特別研究費制度を設けて、学内研究の活性化を図っている。
項目 No.1120	「研究ガイドブック」等を作成し、不正防止に対して積極的に取り組んでいる。

課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	科学研究費の申請数向上を図り、外部資金の更なる獲得を目指す。
項目 No.1120	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
1.	特別研究費の見直しを実施し、研究推進アドバイザー委員会を立ち上げ、申請書の添削等を行うことにより外部資金獲得につなげるためにチャレンジを始めた。
2.	研究不正防止の取り組みを強化するために「研究ガイドブック」等を見直し行った。
3.	業務の効率化を狙いとして、配分機関による特色を考慮し、担当業務の専門性（公的資金申請チーム、公的資金予算執行管理チーム、産官学連携チーム）を今まで以上に高めることにチャレンジした。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	科学研究費の申請数向上を図り、外部資金の更なる獲得を目指す。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	研究戦略の方策について
1120	b	A	研究ガイドブック
1120	c	A	産学連携ハンドブック
1120	d	A	中部大学における科学技術の健全な発展のために
1120	e	A	安全保障貿易管理ガイドブック
1120	f	A	中部大学フェアパンフレット
1120	g	A	中部大学研究戦略部門パンフレット
1120	h	A	中部大学研究者紹介
1120	i	A	各種産官学連携活動実績

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	研究推進事務部COC推進課 (2017 年度：COC 地域連携教育研究センター)
--------	---

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
平成 25 年度、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)」に『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業』が採択され、これを全学的に推進するためにCOC 地域連携教育研究センターが組織された。 【根拠資料 1120・a】 平成 27 年度には、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」に採択され共に推進している。COC 推進委員会およびCOC プラス推進委員会を設置し、事業計画、その他運営に関する重要事項を検討・審議している。 【根拠資料 1120・b】 【根拠資料 1120・c】 事業の目標や計画については、文部科学省へ補助金申請と併せて提出している。 【根拠資料 1120・d】 活動内容については、成果報告書(冊子)に纏め学内外へ配付している。(HPにも掲載) 【根拠資料 1120・e】 自己点検・評価については、学部長研究科長会構成員からなる内部評価委員会を設置しており、事業計画と成果の自己評価表等の資料を作成し、学長が議長となり平成 30 年 1 月 23 日に実施した。 【根拠資料 1120・f】 また、COC 事業については、大学・研究機関、行政、商工会議所の有識者からなる外部評価委員会も設置しており、平成 30 年 2 月 27 日に実施し、皆様からのご意見を、今後の展開と発展を考えるうえでの参考としている。 【根拠資料 1120・g】	
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	COC 組織体制は、学長を総括責任者とし、全学体制を構築している。全学部からの委員を含むCOC 推進委員会を設置し推進にあたっている。 【根拠資料 1120・h】
項目 No.1120	地域と協働して、地域貢献活動を通し社会で活躍できる人材の育成を行っている。COC は「地域創成メディエーター」、COC+ は「地域活性化リーダー」を大学独自の資格として輩出している。 【根拠資料 1120・i】

課題事項	《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点
項目 No.1120	ホームページの更新頻度を増やし、事業成果の公表を拡充する必要がある。
項目 No.1120	地域創成メディエーター、地域活性化リーダー資格について、学生の認知度を向上させる。
項目 No.1120	事務部における業務内容の点検方法についての見直しが必要である。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
COC事業については、5年目の取組みで教員の理解・協力が増え、地域創成メディエーターの資格取得を学生に強く奨め、認定の最終課題「地域創成メディエーター学生発表会」まで指導およびフォローアップを行った。これにより平成29年度は、132名に認定証書を授与することができた。【根拠資料 1120・j】 COC事業は、文部科学省の補助金が平成29年度で終了するため、平成30年度からは大学独自予算で活動を継続することとなった。引き続き、地域創成メディエーターを認定するため、地域連携活動を増やしていく必要がある。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
項目 No.1120	COC事業の地域連携活動を増やすため、追加募集を行う。
項目 No.1120	COC+「地域活性化リーダー」認定者を増やすため、分かりやすい資格取得に関するチラシを作成し学生へ案内する。委員会委員にも学生への指導を強く奨めていただく。
項目 No.1120	学内外へ広く活動を広めるため、ホームページの内容について見直し、定期的に更新する。
項目 No.1120	事務部における業務内容の点検方法として、定期的に課内で会合（勉強会）を開き、相互の業務について資料を用いながら理解を深め意見交換をし、情報を共有する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	COC地域連携教育研究センター規程と事務分掌
1120	b	A	COC/COC+推進委員会規程
1120	c	A	COC/COC+推進委員会開催案内等
1120	d	A	COC/COC+事業計画
1120	e	A	COC/COC+成果報告書（HP掲載） (COC) https://www3.chubu.ac.jp/coc/report/ (COC+) https://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/report/
1120	f	A	内部評価委員会議事録
1120	g	A	外部評価委員会議事録
1120	h	A	COC事業体制図
1120	i	A	COC/COC+資格取得ガイド（HP掲載） (COC) https://www3.chubu.ac.jp/innovation_mediator/news/22912/ (COC+) https://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/qualification/
1120	j	A	地域創成メディエーター学生発表会_次第

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	中部大学出版室
--------	---------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
<p>出版室では、出版物(「アリーナ」及びブックシリーズ「アクタ」)の出版と学術フォーラムシリーズの開催を主な業務としており、研究戦略委員会に報告し検証・点検している。</p> <p>アリーナは継続出版で独立性が高い。</p> <p>アクタは、ブックシリーズ審査会の意見聴取が必要であるが、改善すべき点があり、今後改善する。</p> <p>学術フォーラムシリーズは、研究支援調整会議で企画提案し、研究戦略委員会の議を経て実行し、研究支援調整会議の報告を基に研究戦略委員会で検証・点検している。</p> <p>出版室の業務は、研究支援調整会議及び研究戦略委員会で活動を報告し検証・点検している。</p>	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	高等学術フォーラムシリーズを継続している。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	ブックシリーズ審査会の常置化。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>高等学術フォーラムシリーズは、平成21年度から実施し、18回を終えた。その間、理系文系を問わず著名な講師に講演をいただき、大学のアカデミック化に貢献している。</p> <p>ブックシリーズ審査会は、常置化すべきであり今後取り組んでいく。</p> <p>アリーナは、独立しており現状のまま推移する。</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	ブックシリーズ審査会の常置化を目指す。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	研究戦略委員会活動記録
1120	b	A	研究支援調整会議活動記録
1120	C	A	中部大学高等学術フォーラムパンフレット
1120	d	B	アリーナ
1120	e	B	アクタ

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	教育支援部 (教育支援課)
--------	---------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
<ul style="list-style-type: none"> 平成 29 ('17) 年度事務分掌に則り業務を行っている。具体的には以下のとおりである。 事務分掌に規定されている全学教育研究施設群 (以下、施設群) に関する会議については、平成 29 年 5 月 23 日に、第 1 回全学教育研究施設群連絡会 (以下、連絡会) を開催した。同連絡会にて、施設群に所属する各センター・部の活動の円滑な実施を推進する等、連絡会の設置趣旨、連絡会に関する申合せや同委員会の委員構成について了承を得た。その後は学長裁定により決定される予定となり、大学協議会で報告した。[1120a/b/c] 施設群の各センター・部に、平成 30 ('18) 年度事業計画案の作成を依頼し、提出案に基づいて、施設群担当の副学長と各センター長・部長との個別面談を実施後、事業計画として学長に提出した。その後、学長聴聞に対応した。[1120d/e] 平成 28 ('16) 年度に引き続いて、施設群に属するセンターの運営上の課題解決に向けて、当該組織のあり方について検討を行った。[1120f/g] 年度末に向けて、施設群の各センター・部に、平成 29 年度委員会活動報告の作成提出を依頼し、平成 29 年度のそれぞれの委員会活動の振り返りを促し、取り纏めて学務部に提出した。[1120h] 年度末に、施設群の各センター・部に、平成 29 年度の活動実績の取り纏めや平成 30 年度事業計画の実施準備等を促した。[1120i] 	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1120	管理運営組織として担当する包括的・統括的業務の範囲を、より明確に改善すべきである。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
・担当する全学教育研究施設群に属する各センター・部の設置目的、組織形態、運営方法が大きく異なるため、教育支援部としては包括的、統括的な業務を行っている。また、個々のセンター・部における運営上の問題等の改善等について、施設群担当の副学長をサポートすることにより、取り組んでいる。[1120a/c/d/e/f/g/h/i]

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	・全学教育研究施設群のセンター・部における活動の課題等を、各センター・部内だけでの検討に留まらずに、全学的な視点で検討する場を準備する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	全学教育研究施設群連絡会に関する申合せ
1120	b	B	平成29年度全学教育研究施設群連絡会委員名簿
1120	c	A	平成29年度第1回全学教育研究施設群連絡会議事録
1120	d	A	平成30年度の学部等重点事業計画の提出について
1120	e	B	平成30年度教育・研究に係る事業計画案と予算の提出について (依頼)
1120	f	A	平成28年度第5回教育支援機構会議議事録
1120	g	B	平成29年度メディア教育センターのあり方検討WG 委員名簿
1120	h	A	平成29年度委員会活動報告の提出依頼
1120	i	A	平成29年度業務取り纏めのお願い

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	総合情報センター
--------	----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1120	2017 年度更新のメールシステム(オンラインストレージ含)、LMS システムのクラウド化に伴い、総合情報センター運営委員会(会議2回とメール審議1回)にて利用基準等の見直しを審議し、運用の適切性を確認した。また、2017 年度の総合情報センターの各種利用状況を運営委員会に報告するとともに、大学担当部署に利用統計報告、学内に実態資料として提供し、センター設置目的の適切性を確認している。
1120	2018 年度更新システムの選定について、ICT 運営委員会の元にシステム更新 WG を設置し、仕様書の作成、業者選定等を行い、ICT 運営委員会に諮り、導入経緯等の適切性を確認した。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	2017 年導入システムのクラウド化による BCP(事業継続計画)へシステム移行した。
項目 No.1120	2018 年度導入予定システムはサーバー仮想化によるとサービス継続(安定運用)と図書館システムとのハードウェア統合による運用経費の削減を行った。
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	事務分掌について情報関連部署再編のため部署間での調整が必要である。
項目 No.1120	各種業務の管理者作業マニュアル整備する必要がある。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない
------------	-------------

システム更新時に新サービスのマニュアルを順次、更新を行っており、ユーザー向けマニュアルは整備されているが担当者向けマニュアルの整備が不足している。メールシステム関連（Office365 移行設定各種マニュアル、担当者マニュアル）、およびLMSシステム（教員向けマニュアル、学生向けマニュアル、担当者マニュアル）のマニュアルを作成した。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
項目 No.1120	情報化関連部署再編WGにて「情報関連化組織事務分掌整理」を行う。
項目 No.1120	各種業務の作業マニュアルの整備は、業務の引継ぎ、属人化の解消に必要であり、2018年度のシステム更新および業務再編に合わせ、不足分（緊急対応を除き）を整備する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	B	総合情報センター運営委員会議事録、原本保証（決裁済）
1120	b	B	ICT 運営委員会議事録、原本保証（決裁済）

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	メディア教育センター
--------	------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度におけるメディア教育センター業務は、事務分掌に則り実施した。 メディア教育センターは、平成 25 年度から平成 28 年度までの間、教育支援機構下に置かれた。その間、他のセンター等と共に実情確認および組織・業務の見直しが実施(計画)された。メディア教育センターは、平成 29 年度に見直しが行われる予定だった。しかし、大学の組織が平成 29 年度からは機構に変わり新たに全学教育研究施設群下に置かれることになったため、センターの見直しが行われることはなかった。[1120a/b/c] メディア教育センターは、前回の自己点検・評価に記述したように、2ヶ所に配置(新5号館と27号館)され、それぞれ業務を実施していた。平成 28 年度 5 月、大学より機構を通じ 27 号館へ業務を集約するように指示された。それを受け、平成 28 年度「第 1～3 回メディア教育センター運営委員会」を開催し、課題を協議した。しかし、すべてにおいて解決に至らず、平成 29 年度へ持ち越すこととなった。[1120d/e/f] 平成 29 年 5 月、全学教育研究施設群の事務を統括する教育支援課より、「平成 30 年度 教育・研究に係る事業計画案と予算」の提出が求められた。10 月、提出した事業計画案と予算の内、コミュニケーション学科授業(実習)用としてのビデオ編集設備の更新について、非採択となったことを確認した。それを受け、人文学部と協議し、全学教育研究施設群担当副学長の下、「メディア教育センターのあり方検討WG」が発足した。そのWGではメディア教育センターの抱える課題の解決に向けて検討が始まった。[1120g/h/i] 「第 2 回メディア教育センターのあり方検討会」での結果を受け、センター会議を実施した。それにより、残されていた課題の一部の解決に向けてその業務に当たった。具体的には、①事務室の整備、②実習環境(音響・編集スタジオ(仮称))の整備、③メディア教育センター業務の効率化の促進、等である。[1120j/k]

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No. 1120	課題解決に至っていない点や、今後の設備更新のあり方を検討する。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに2回の「メディア教育センターのあり方検討会」が開催され、その検討会を通じ一部の課題解決に繋がった。それにより、センター業務の改善が推進した。〔1120i/j/k〕 	

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア教育センター事業・スタジオの設備更新等について ・映像スタジオの活用について 引き続き「メディア教育センターのあり方検討会」を開催し、改善に務める。
1120	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に整備された事務室および音響・編集スタジオ（仮称）の運用・管理について 平成30年度では、運用・管理を推進し、点検を実施する

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	平成26(2014)年4月1日_学校法人中部大学管理組織図
1120	b	A	平成29(2017)年4月1日_学校法人中部大学管理組織図
1120	c	A	平成28年度第5回教育支援機構会議(17.2.21) 議事録
1120	d	A	平成28年度第1回メディア教育センター運営委員会議事録
1120	e	A	平成28年度第2回メディア教育センター運営委員会議事録
1120	f	A	平成28年度第3回メディア教育センター運営委員会議事録
1120	g	A	平成30年度メディア教育センター事業計画提出表
1120	h	A	5400 メディア教育センター中期予算計画調査票
1120	i	B	メディア教育センターのあり方検討WG
1120	j	A	第1回メディア教育センターのあり方検討会議事録
1120	k	A	第2回メディア教育センターのあり方検討会議事録

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	教育実習センター（事務室）
--------	---------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
<p>教育実習センターは、現代教育学部が実施する小学校教育実習等の支援を行ったり、教職を志向する学生支援を実施したりすることを主たる業務としている。教育実習に関する支援は、それぞれの実習ごとに行う「教育実習指導」という演習系の授業という形式をとっている。この授業の内容に関しては、毎年、授業開始前年度に詳細な計画を作成し、年度末には、計画に沿って活動が展開されたかどうかを検証するための会議を実施し、その議論の成果を次年度の活動計画づくりに生かしている。</p> <p>こうした計画立案段階および活動評価の段階における議論が業務内容の点検であり、こうした点検活動を経て、業務内容の改善を不断に実施している。</p> <p>また、教職関連の就職支援に関しても、実施状況や活動成果を資料としてまとめ、現代教育学部教職員に公開する方法で、活動の成果等に関する情報の共有を行っている。</p> <p>教育実習センター事務室は、学校法人中部大学管理運営規則の事務分掌に定められた業務を適正に遂行している。[1120a] 主として、学校ボランティア受付、教員採用試験参考書の整備および教育行政情報の提供、教員採用試験受験者情報の集約、教員採用試験面接対策受付等を行っている。職員数が少ないため、事務室の運営に関する会議等は特に設けていない。</p>	
長所・特色 < 箇条書き > *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	教育実習センター教員による教員採用試験面接指導等 [1120b]
項目 No.	
課題事項 < 箇条書き > *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	事務室業務について、年度ごとの目標設定、総括を行う場を設けていないこと
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>教育実習センターでは、学生の採用状況を正確に把握するための取り組みや、関連する各種統計資料の整理を実施するなどして、より効果的な学生支援方法についての改善を重ねている。また、各教育委員会が実施する教員採用試験に関連する情報の収集・発信（冊子形式）を行う中で、採用試験の方法の変化に対応した支援方法を模索し、より効果的な学生支援が可能となるように活動内容の改善も継続的に実施している。</p> <p>さらに、教育実習センターの掲示物の整備や、現代教育学部以外の学部にも所属する学生で、教職を目指す学生に対する支援なども可能な範囲で実施する。その実例として、従来、教育委員会等からの講師求人情報は学科教員が受け付けしたものを学生（卒業生を含む）にメールで一斉配信していたが、受付窓口を教育実習センター事務室に集約させ、ホームページに掲載する方法に変更した。[1120c]</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	自習エリアの整備（書棚の雑誌類を整理・処分し、学生が利用しやすいよう配架方法を改善する）

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	事務分掌
1120	b	A	月別面談回数
1120	c	A	講師求人情報 教育実習センターHP https://www3.chubu.ac.jp/teaching_practicum/offer/

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	教職支援センター
--------	----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1120 全学部 of 教員を志す学生の免許取得、保育実習に係る支援を実施。教職支援センター運営委員会にて報告、問題点の検証を行っている。そのほか教職課程教員および学科教職担当者との連絡会議にて教育実習に関する報告を行い、問題点の洗いだしと情報の共有を行っている。[1120ab]	
1120 教員免許状更新講習の実施。学長の組織する教員免許状更新講習企画運営会議にて受講者データを分析し、実施方針の決定、見直し、新しい講習の企画を行う。また、講習担当講師と企画運営会議メンバーを集めて講師会議を行い(年2回)講習の成果、反省の発表を行っている。[1120cd]	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	履修指導から成績経過まで学年毎にチェックをし、きめ細やかな指導を行っている。
項目 No.1120	更新講習受講者に大学との連携についてのアンケートを行い、他部署への情報提供を行った。[1120e]
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	業務の縦割りを改善し、スタッフ各人のスキルアップを図る。
項目 No.1120	学生が教員免許取得へのイメージを明確に持てるような指導方法、資料の改善を行う。

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>オリエンテーション資料の見直し。</p> <p>卒業生を招き教員という仕事のやりがい、苦勞などの実体験を聞くことにより、教職に関してのより具体的なイメージを持てるようにした。</p> <p>工業高校の校長・教頭先生として活躍している OB を招き、教員採用試験の面接対策など、小規模グループセミナーを行った。〔1120f〕</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	現在学年単位で作成しているオリエンテーション資料を体系的に表示できるよう、手引書としてまとめる。
1120	教職に直接関連している事柄ばかりでなく、広く知識として役立つような講習の開催。
1120	現状の報告が主になっている委員会のあり方の見直し

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	教職支援センター運営委員会議事録
1120	b	A	教職課程運営委員会議事録
1120	c	A	更新講習企画運営会議議事録
1120	d	B	更新講習企画運営会議資料
1120	e	B	更新講習受講者向けアンケートおよび結果
1120	f	A	OB による教職セミナー「仕事のはなしを聞いてみよう」

提出区分 … A : 本シートと一緒に提出する資料 B : 現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	コモンズセンター事務局
--------	-------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
不言実行館運営委員会を年、数回開催して集計した資料を基に運営状況等の報告をし、自己点検を行っている。2015 年度からの年度別施設利用状況や実施企画の件数、内容、参加状況を基に自己点検を図り、次年度に向けての改善点や、より向上できる方法を模索している。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	運営委員会委員にコモンズサポーター(学生委員)を加え、学生の意見を取り入れている。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	学生の自主的活動を促進するため、実施した活動を周知していく場を検討する必要がある。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
2017 年度はサポーターリーダーによるサポーターに対しての面談(振り返り)を実施して自己点検・評価の参考とした。
2019 年度中に同窓会、地域関係者を含めた外部評価を実施する予定である。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	利用学生・生徒に対してアンケート等を実施し、運営状況をチェックする。
1120	学生の成長を発信する企画（人間力育成グランプリ（仮称））の今年度中に実施の検討。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	不言実行館規程
1120	b	A	不言実行館運営委員会規程
1120	c	A	不言実行館運営委員会議事録 2018.1 月開催
1120	d	A	不言実行館運営委員会配布資料 2018.1 月開催（実施企画一覧）
1120	e	A	不言実行館運営委員会議事録 2018.4 月開催
1120	f	A	不言実行館運営委員会配布資料 2018.4 月開催（利用状況一覧）
1120	g	A	不言実行館ビジョン実行計画進捗状況表
1120	h	A	コモンズサポーターの面談フィードバックまとめ

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	理事長室
--------	------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
2015(平成27)年3月	学園ビジョン策定(理事会、評議員会了承)
2016(平成28)年3月	実行計画策定()
2017(平成29)年5月	進捗状況とりまとめ(理事会、評議員会報告)
2018(平成30)年5月	進捗状況とりまとめ(理事会、評議員会報告予定)
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	迅速な合意形成のためにインフォーマルな会議体を設置した。(理事長室会議から幹部連絡会、さらには総合企画調整会議の設置へ)
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.	
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 向上・改善の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
・ビジョン発表から1年かけて実行計画を策定した。実行計画の策定にあたっては、既存の委員会とWG活動を併用し、結論が得られたものは職制に移行し、即実行した。

・着手済みであった「不言実行館の活用」「高大連携」に加え、「教育改革」「研究力向上」「先端教育環境整備」「女子学生・生徒拡充」「財政基盤強化」の7つの項目で実行計画を策定した。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
1120	・実行計画の策定後 2 年目に突入したところで、全てが順調に動き出したという訳ではなく、むしろこれらの進捗状況を踏まえ、今後どのように対処するかが重要である。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	B	学園ビジョン 2015-2020 実行計画 進捗状況（2017.5.1 現在）
1120	b	B	学園ビジョン 2015-2020 実行計画 進捗状況（2017.5.1 現在）資料編

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	学園広報制作課
--------	---------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	C
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
1120-(1) 事務分掌に規定された課の業務のうち、「学園報」については紙での発行は無く、学内でのホームページ公開・閲覧に留まるため、編集委員・通信員は組織しているが、会合としての委員会は開催せず、委員・通信員による公開前のチェックのみとしている。内容に関しては各号ごとに起案・決裁を得ている。(1120a, 1120b)	
1120-(2) 定期刊行物の「中部大学通信(ウプト)」と「ANTENNA」はそれぞれ、原則として発行日の翌日に編集委員会を開催し、発行号についての反省を行い、次号の企画について検討し、承認を得ている(1120c, 1120d, 1120e, 1120f)。ホームページの運営については、管理・運用規程を改訂し、運営委員会とワーキング小委員会を組織し直し、管理・運用と検証の体制を整えた。(1120g, 1120h, 1120i, 1120j)	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	学園広報を統括する部署として設置された課で、刊行物やホームページなど、制作物の外注を極力減らし、課内で制作している。(1120d, 1120f)
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	「大学案内」パンフレットの制作については、前年からのマイナーチェンジで制作会社と掲載内容の固定化が続き、チェック機能が働いていない。受験生対象のパンフレットの制作をどのような手順でどこが行うか、検討が必要。
項目 No.	

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
ホームページ運営委員会については、委員会のあり方と管理・運用規程を見直し、管理・運用規程を改訂し、運営委員会とワーキング小委員会を組織し直した。その上で、運営委員会、英文ホームページの充実に関するワーキング小委員会を各1回開催し、大学ホームページ運営の確認と今後の方向性について、英文ホームページの充実に向けての方策について話し合った。(1120g, 1120h, 1120i, 1120j)

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	ホームページの改善に向けて、一部リニューアルも含め、具体的な方針を打ち出す。 英文ホームページ、特に教員情報を充実させるために、定期的にワーキング小委員会を開催して、ホームページ更新の意識の徹底を図る。
1120	大学グッズの開発・制作と管理、マスコミとの連絡及び交流については、現状は記録・保管だけに留まっているため、それぞれ運用の指針を作成する。

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	平成 29 年度事務分掌 (学園広報制作課)
1120	b	A	平成 29 年度学園報編集委員・通信員
1120	c	A	平成 29 年度ウプト編集委員
1120	d	A	ウプト編集委員会議事録
1120	e	A	平成 29 年度 ANTENNA 編集委員
1120	f	A	ANTENNA 編集委員会議事録
1120	g	A	中部大学ホームページ管理・運用規程
1120	h	A	平成 29 年度ホームページ運営委員会・小委員会
1120	i	A	ホームページ運営委員会議事録 (2017 年 12 月 5 日)
1120	j	A	英文ホームページの充実に関するワーキング小委員会議事録 (2018 年 3 月 1 日)

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	財務部財務課
--------	--------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
<p>予算・決算・補助金申請など事務分掌で定められた財務課の業務に遺漏なく対応するため、業務一覧を作成し、計画的に業務を進めている。また、各々の業務には複数の担当者を設定し、業務が滞らないようにすると共に、課全体の業務カバー率を数値化し、業務対応可能状況の「見える化」に取り組んだ[1120a]。</p> <p>予算原案及び予算編成方針案の検討を目的とした予算・財政検討委員会は、理事長に予算原案等を提出する前に開催され、委員により検討されている[1120b]。</p> <p>教育研究活動を安定して遂行するための中長期の財政計画においては、財務部での財務目標(財務比率)の素案はあるものの、学園の中長期予算計画への反映及び学内承認に至っていない。そのため、予算執行内容の検証、予算制度のあり方の検討、新規案件・臨時案件等への投資に対する効果の検証など、財務目標に近づけるために必要な検証業務の優先順位が低くなり、これらの業務への対応が不十分となっている。</p> <p>限られた人員でこれらの業務に対応するために、現状業務の更なる効率化と見直し、また、業務の先回りにより特定時期に集中する負荷を分散させることが必要である。中長期的な財政計画に係る業務に必要な時間を捻出し、学園の安定経営に繋がる業務を推進することが課題である。</p>	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	担当業務一覧による業務把握
項目 No.1120	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	中長期財務目標の学内承認と、財務目標に沿った予算計画の策定
項目 No.1120	4月～5月に予算設定(システム運用)、決算、補助金申請の業務が集中する

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
<p>課の特性上、補助金申請、決算、各種調査回答など年に1度の業務が多数存在する。マニュアルを作成し、年度や担当者の違いによって業務に違いが生じないようにしている。また、資料の保存場所を明示(フッターにファイルパス表示)することで、過去の資料を探すことに時間をかけないようにしている(これらは前年度からの継続事項)。</p> <p>業務一覧で各々が課全体の業務を把握するとともに、年間の業務スケジュールを意識して取り組んでいる[1120a]。</p> <p>学園の中長期予算計画策定に備えて、財務部で財務目標の原案を作成している。</p>

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	中長期財務目標の学内承認と、目標に沿った予算計画の策定
1120	業務の効率化、見直し、特定時期に集中する負荷の分散

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120	a	A	財務課業務一覧・担当(2017)
1120	b	A	予算・財政検討委員会議事録(平成29年度第2回)
1120	b	B	予算・財政検討委員会議事録(平成29年度第1回、3回、4回)

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2018 年度(対象年度:2017 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	財務部会計課
--------	--------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：適切に取り組んでいる」「B：概ね取り組んでいる」「C：改善すべき点がある」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
<p>金銭等の出納、学納金等の収納などについては、金融機関等から発行される取引照合表などを基に、また資金運用などの管理については、取引残高報告書に加え四半期ごとに格付け及び時価情報も収集し、リスク管理に備えチェック遂行している。</p> <p>また、三浦記念基金・70周年記念奨学基金の委員会については、大きな制度変更等が無い場合、稟議書をもって開催としている。</p>	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	債券の格付け及び時価情報の収集
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	身分および年齢構成を考慮した体制づくり
項目 No.1120	担当ごとのデイリー業務・定期業務など主な業務マニュアルの作成

3. 向上・改善に向けた取り組み

向上・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない
個人的な業務マニュアルを組織共有の業務マニュアルとして仕上げる。

<今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策 (到達目標を含む)
1120	いつでも異動や担当業務の変更があっても対処できる体制づくり及び人員配置

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料記号	提出区分	根拠資料の名称
1120		B	格付け一覧
1120		B	時価情報

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管